

# 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

## 1. 研修責任者

保富 宗城

### 研修医へのメッセージ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科では病態を深く考え、ものごとの本質を探究できる医師の育成を目指して研修医を指導します。卒後臨床研修では、医師として必要な病歴聴取や身体診察や検査、治療を学び、感覚器疾患の考え方を習得してもらうことを目標とします。また、手術や術後管理を通じ、基本的な外科的対応の習得も目標とします。良好な医師と患者関係、医師同士やメディカルスタッフとの協力関係を築けるコミュニケーション能力も涵養します。

## 2. 一般目標

- (1)耳鼻咽喉科の診療を通じて感覚器(聴覚、味覚、嗅覚)疾患の考え方を習得する。
- (2)頭頸部外科領域の診断、治療、処置を通じて外科的対応を習得する。

## 3. 行動目標

### A. 経験すべき診察法・検査・手技

#### (1)基本的な身体診察法

- ①問診および病歴の聴取と記録:疾患に応じた的確な問診と病歴作成ができる。
- ②耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の身体診察ができる。

#### (2)基本的な検査とその解釈

- ①聴力検査、嗅覚検査、味覚検査、平衡機能検査、眼振検査、喉頭内視鏡検査、嚥下機能検査、頸部超音波検査の実施と結果の解釈ができる。
- ②放射線検査:単純X線検査、CT検査、MRI検査、核医学検査結果の解釈ができる。
- ③アレルギー検査結果の解釈ができる。

#### (3)基本的治療法

- ①薬物治療:抗菌薬や副腎皮質ステロイド薬、抗アレルギー薬などの適応、薬物選択、副作用を習得する。
- ②外科的治療:術式の選択、切開や縫合を含めた手技、術後の創部管理を習得する。
- ③気道確保:気管切開、気管カニューレ交換の手技など気道呼吸管理を習得する。
- ④輸液療法:末梢血管からの輸液、中心静脈からの輸液について適切な指示ができる。
- ⑤悪性腫瘍の化学療法:抗癌剤の適応、作用機序や有害事象について習得する。

### B. 経験すべき症候、経験すべき疾病・病態

- (1)頻度の高い症状・病態:難聴、めまい、鼻閉、鼻漏、鼻出血、嗅覚障害、急性上気道炎、咽頭痛、咳、痰、嚥下困難、リンパ節腫脹、頭頸部腫瘍
- (2)緊急を要する症状・病態:上気道閉塞、呼吸困難

※下線部は医師臨床研修指導ガイドラインー2023年度版ーに記載の29症候、26疾病・病態に記載のあるもの。

(3)経験が求められる疾患

- ①聴覚疾患(外・中・内耳疾患を含む)
- ②鼻・副鼻腔疾患(アレルギー疾患を含む)
- ③口腔・咽頭・喉頭疾患(嚥下障害、唾液腺疾患を含む)
- ④頭頸部腫瘍性疾患(甲状腺腫瘍を含む)

#### 4. 方略

##### (1)指導体制

指導医 1 名、上級医 2－3 名からなるチームに研修医を配属する。配属された研修医は担当医となり、耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の診断、検査、治療に関しての全般的な指導を受ける。

##### (2)診療録記載

研修医は患者診察後速やかに診療録を記載する。指導医・上級医はその内容を確認し、指導する。その際、問診・診察・検査の解釈についても合わせて指導する。身体診察時、必要に応じ指導医・上級医が立ち会う。

##### (3)各種オーダー実施

指導医・上級医は研修医の習得状況を確認し、指示、処方、注射、検査、画像、食事などのオーダーを経験させる。その際、基本的治療法について理解できているか確認し、指導する。

##### (4)各種手技実施

指導医・上級医は研修医の習得状況を確認し、各種手技を経験させる。手術における切開・結紮・縫合、創部処置などの手技は指導医・上級医の監視下で実施する。

#### 5. 週間スケジュール

|    | 月                    | 火  | 水                    | 木                    | 金  |
|----|----------------------|----|----------------------|----------------------|----|
| 午前 | 病棟・外来・<br>救急対応       | 手術 | 病棟・外来・<br>救急対応       | 病棟・外来・<br>救急対応       | 手術 |
| 午後 | 病棟・<br>専門外来・<br>救急対応 | 手術 | 病棟・<br>専門外来・<br>救急対応 | 病棟・<br>専門外来・<br>救急対応 | 手術 |

専門外来:中耳炎、小児難聴、顔面神経、鼻副鼻腔、嗅覚、頭頸部癌、甲状腺、味覚、嚥下

#### 6. 評価方法

PG-EPOC を用い評価する。評価者は臨床研修代表指導医などとする。

##### 1)知識

・病棟、外来診察や手術において、適宜耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患について質問を行い、知識の習得状況を評価する。

##### 2)技能

・習熟度を考慮した上で、指導医、上級医監視の下で各種手技を実施する機会を与え、技能の習得状況を評価する。

##### 3)態度

・指導医、上級医、看護師、その他メディカルスタッフからも意見を聴取し、医師として相応しい態度の習得状況を評価する。

・診療録の適切な記載ができているか評価する。